

税金と聖火リレーと、私。

山形大学附属中学校3年 武田 佳起

私は、令和三年六月、東京オリンピックの聖火ランナーとして山形県天童市を走行しました。これまでお世話になった様々な方々が見守る中、トーチを片手に力強く駆け抜け、希望の光を、様々な想いをのせて、精一杯繋ぐことができました。

そして、私の繋いだ聖火は、七月二三日、開会式で夜空に輝く国立競技場の聖火台に点火され、大会期間中も力強く希望の光となって灯り、八月八日に閉会式でその光は消え、オリンピックは閉幕しました。

今回の聖火リレーで、自らの手で聖火を繋げたことは、私にとって大変貴重な体験となりました。その一方で、「聖火リレーに関係する運営資金はどこから支出されているのか、もしかすると大会スポンサーがすべて賄っているのだろうか？」という疑問が私の中に浮かび上がりました。調査した結果、国をはじめ、地方自治体からの税金が投入されていたことがわかりました。

私は、税金は社会保障や教育など幅広い分野で使用され、私たちの生活を陰ながら支え、豊かにしていることは知っていましたが、今回のような一大イベントにも使用されていたことを知り、驚きました。私は天童市民の方々をはじめ、国民の皆さんの納税のおかげで、今回聖火ランナーを務めさせていただくことができたと感謝するようになりました。直接的にお礼を言うことはできませんが、改めて本当に様々な方々に支えられた二〇〇メートルであったと実感するようになりました。

それだけではなく、税金は、新型コロナウイルス感染症対策や災害支援など日常生活以外でも様々な場面で使われ、全ての人々が安心して暮らせる世の中をつくる上での欠かせない仕組みとなっています。つまり、助け合いの精神のもと納税することで、誰もがより良い生活を過ごすことができているということです。私も社会の一員として納税を通して世の中に貢献したいと強く思うようになりました。

今までは何気なく知っていただけでしたが、今回の体験を通して、税をより身近に、自分事として捉えられるようになりました。また、今回の聖火リレーをはじめ、これまで受けた御恩を、社会へ恩返ししたいと強く思うようになりました。さらに、私にしかできないこと、それは今回聖火を繋いだように、未来へ希望を繋ぐ人になりたい、と強く願うようになりました。

そして、自宅に飾ってある聖火トーチにこれらの想いをはせ、目を向けると、これまで以上により輝いて見えました。その輝く炎は、明るい日本の象徴として私の心の中でいつまでも輝き続けます。

これからも「税」を通して、私から誰もが幸福に暮らせる明るい世の中を目指していきたいです。